

## 入選

### わたしのした「小さな親切」

福岡県 山川小学校 六年  
大久保 美優奈

私は、塾の帰りにバス停でバスが来るのを待っていました。すると、手にペットボトルを持った70代くらいの小柄なおばあさんに声をかけられました。

「これ、開けてくれない？」

そう言われて私は、特に何も思うことなく、そのペットボトルを受け取り、フタを開けておばあさんに、「どうぞ。」と言って、わたしました。

私にとってペットボトルのフタを開けることは、とても簡単なことです。しかし、そのおばあさんにとっては、難しいことだったんだ、と気づきました。そこで私は、自分にとって当たり前に行っていることや、簡単なことでも、難しいと感じる人もいるんだな、と思いました。

おばあさんは私に、

「ありがとう。開かなくて困ってたから、助かったよ。」

と言いました。

私にもおばあちゃんがありますが、いつも私にお菓子の袋やフタを「開けて」と言ってくるので、同じだなあ、と思いました。おばあさんに、「ありがとう。」と言われて、とてもうれしい気持ちになりました。

私は何で歳をとると、力が弱くなるのかなと思って調べてみると、

「人の体は歳をとるごとに徐々に筋力が低下し、さらに、老化が原因で神経の伝達速度が遅くなることから、すばやく動けなくなる。」

と書いてありました。

だから、私のおばあちゃんも、バス停であったおばあちゃんも、力が弱くなって、フタなどの固いものが開けられなくなるのか、と思いました。腰が曲がったり、歩くのがおそくなってしまうのも、それが原因なんだろうなと思いました。

でも、私のおばあちゃんは、フタは開けられなくても、料理上手だし、私の知らないことをたくさん知っています。

人によって、できること、できないこと、得意なこと、苦手なことはあると思います。

なので、私はこれからこの時の経験を活かして、困っている人がいたら、自分からすすんで声をかけて助けられたらいいなあ、と思いました。